



第 2 四 半 期 決 算 説 明 会

2014年(平成26年)11月21日

ネツレン

高周波熱錬株式会社

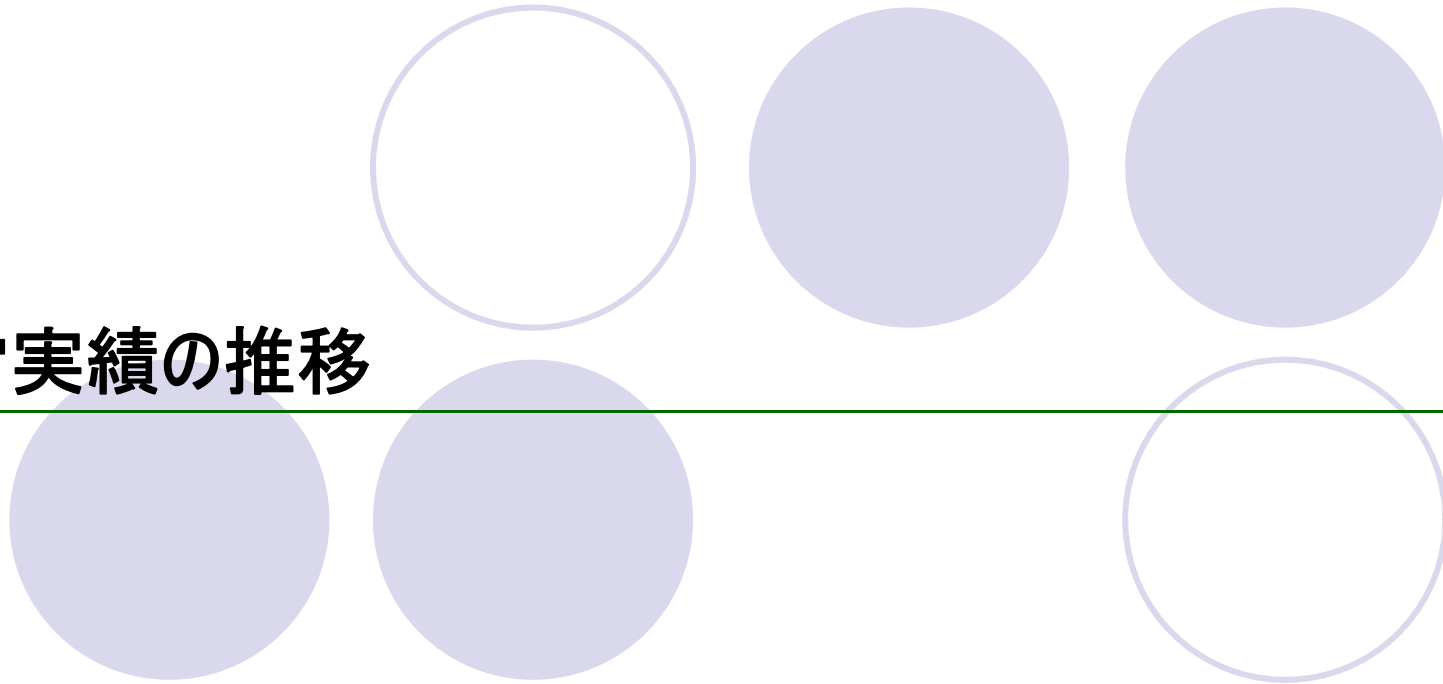
I 経営実績の推移

II 第12次中期経営計画の進捗状況

III 新商品・新技術の開発、新規事業の推進

IV 2015年(平成27年)3月期第2四半期 連結決算の概要

I 経営実績の推移

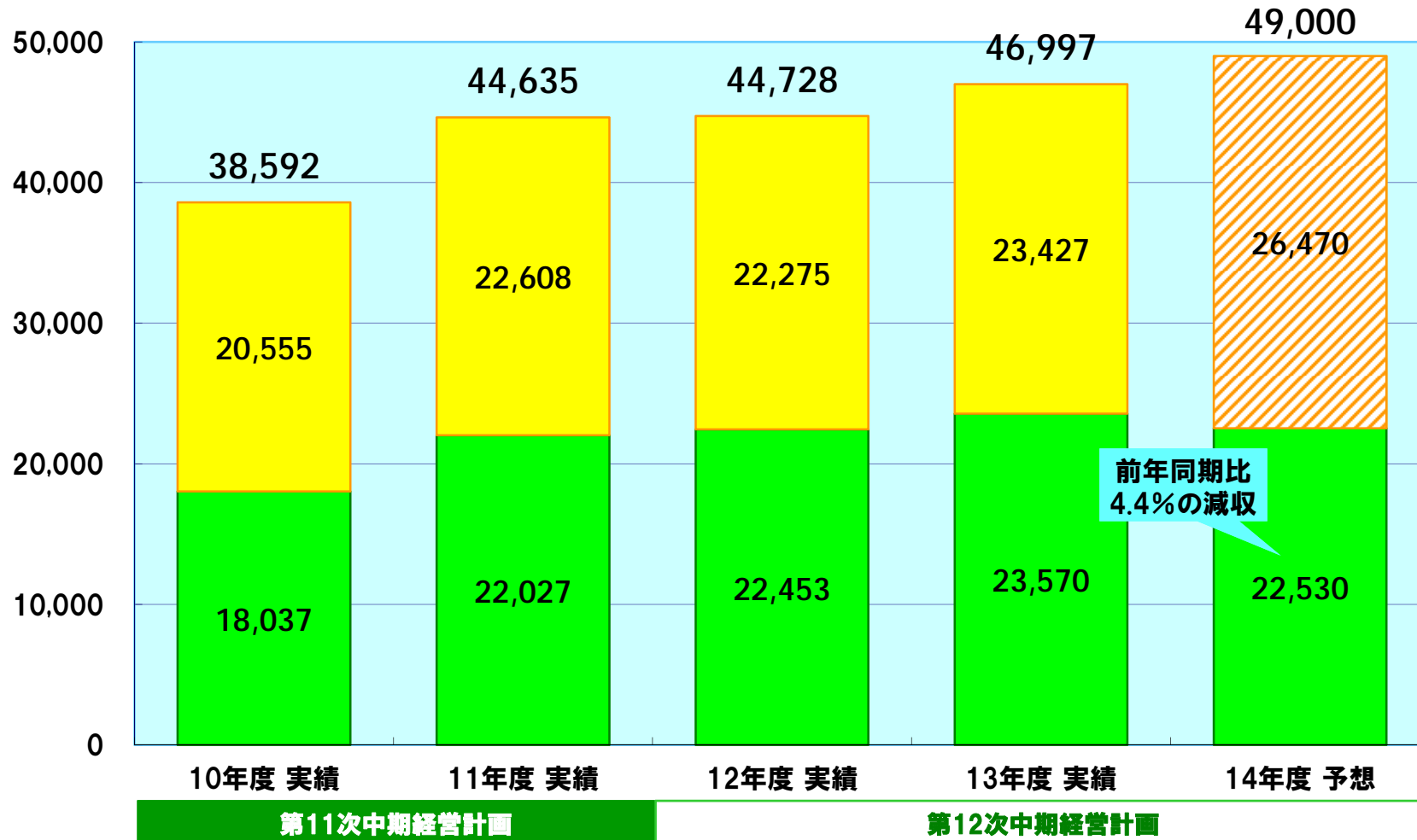


1

連結売上高

(単位:百万円)

下期 売上高
上期 売上高



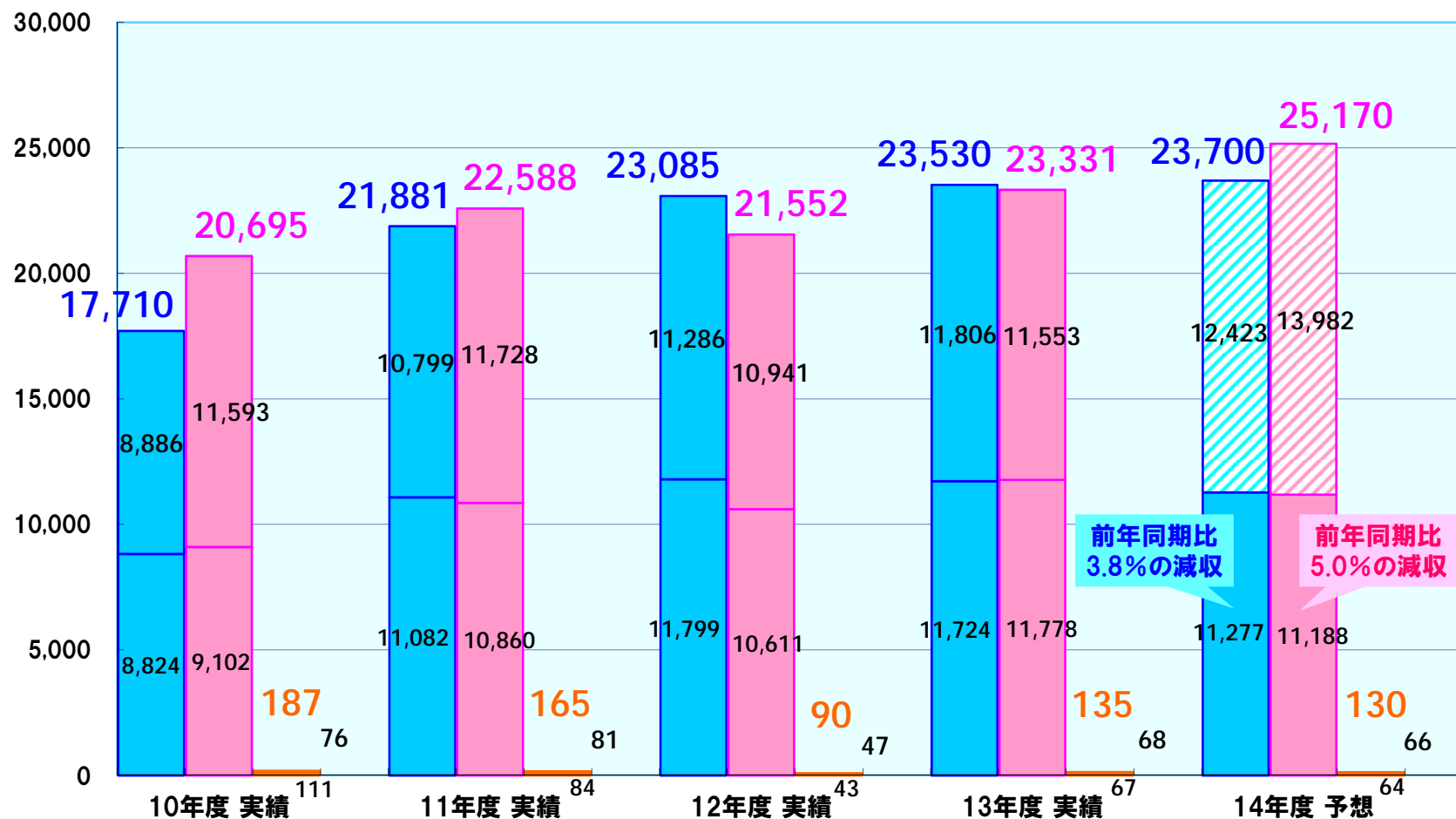
※換算レート ・14年度 1中国元=17円、1USドル=107円

2

セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円)

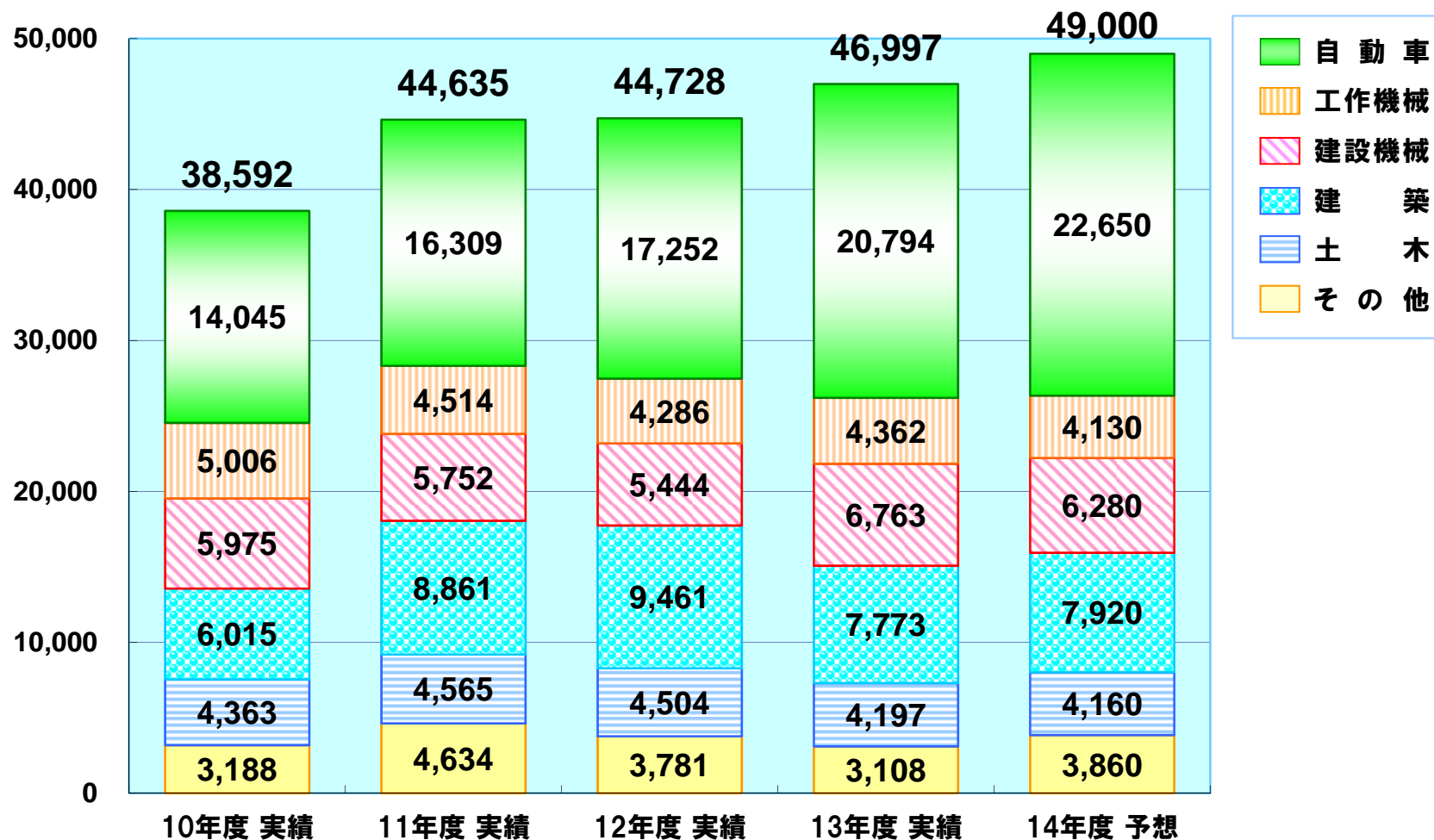
■ 製品事業部関連
■ IH事業部関連
■ その他



3

業界別売上高

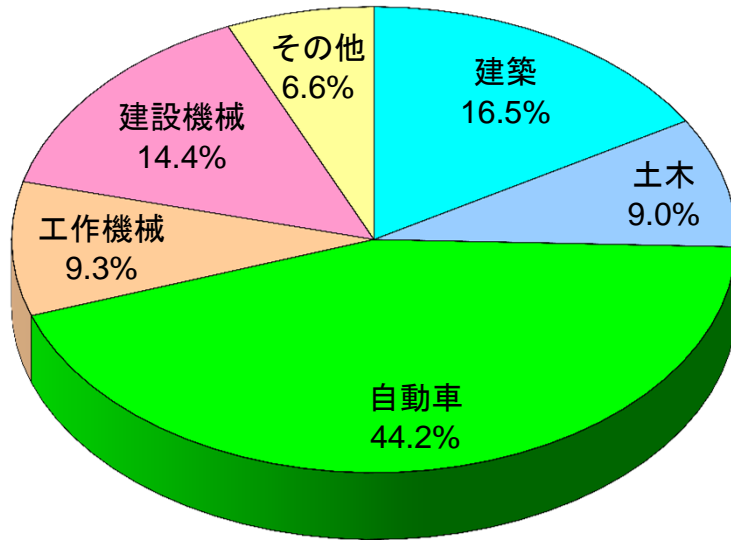
(単位:百万円)



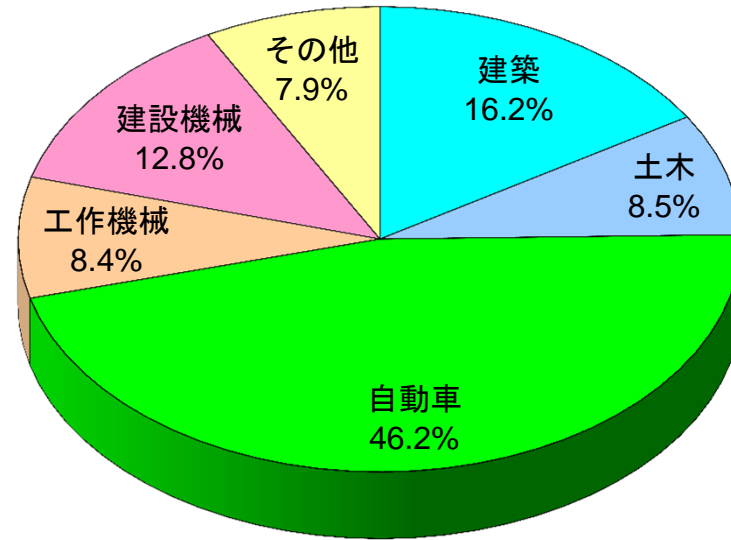
4

業界別売上高比率

2013年度実績



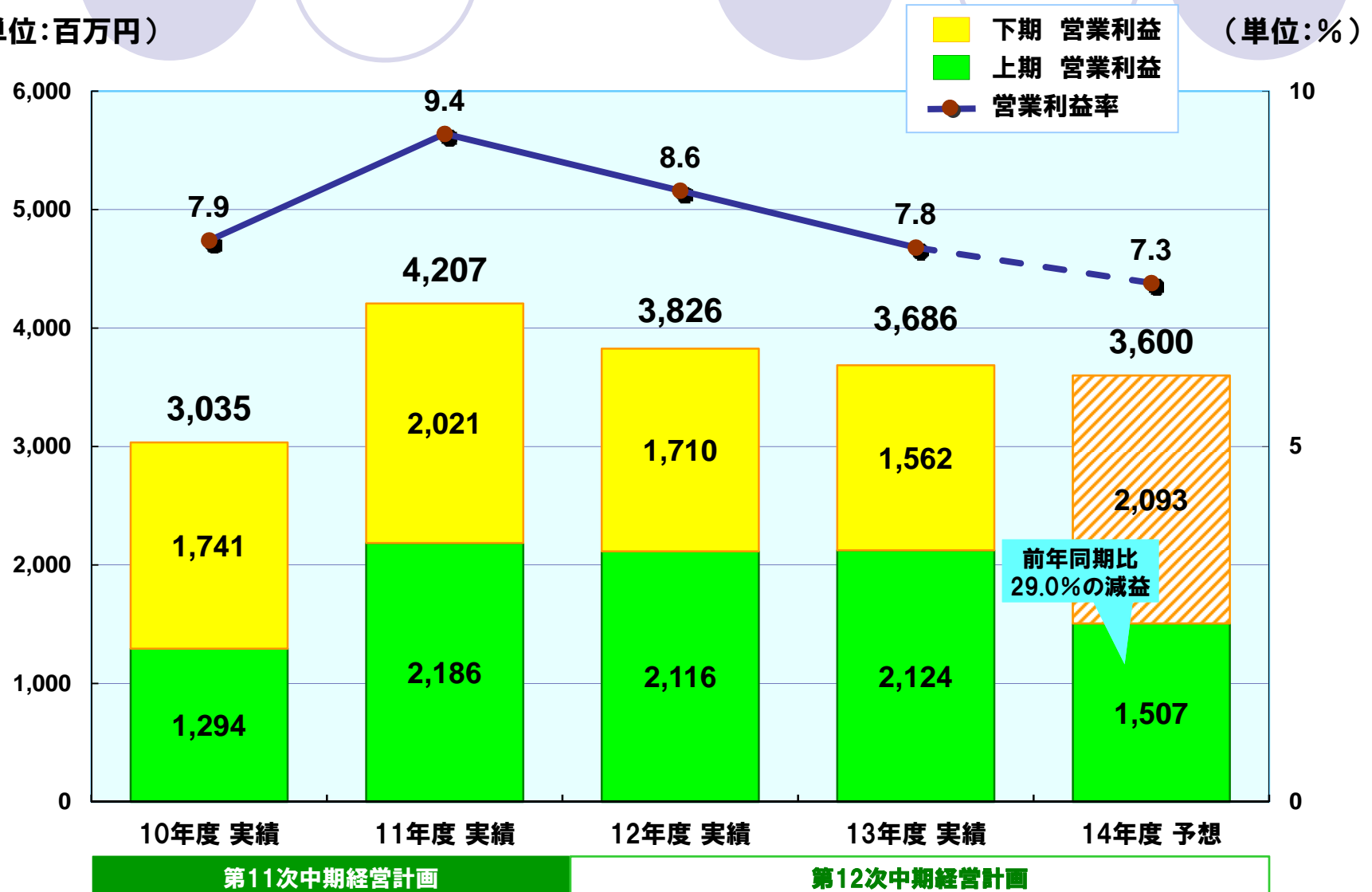
2014年度予想



5

営業利益・営業利益率

(単位:百万円)

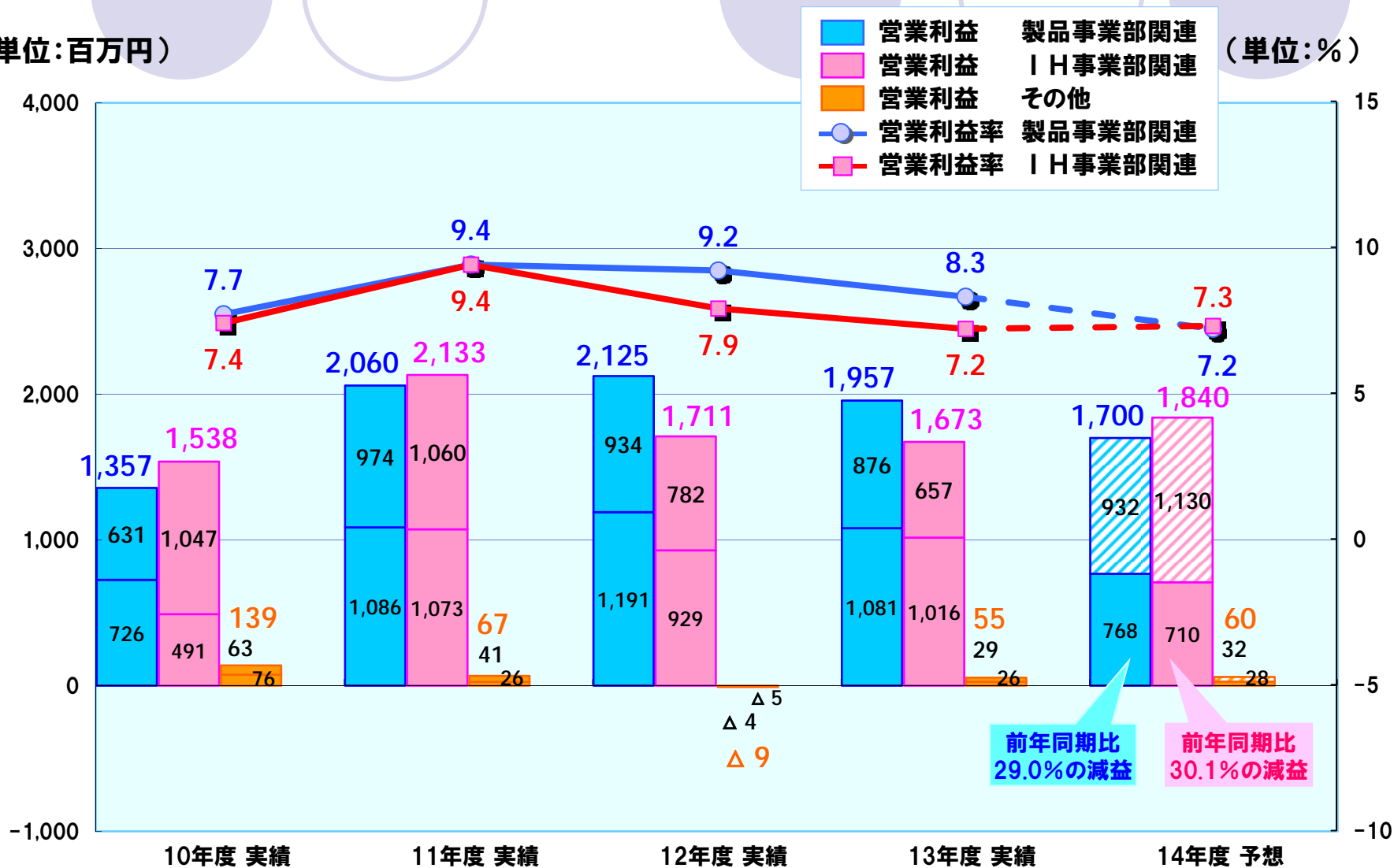


6

セグメント情報(営業利益・営業利益率)

(単位:百万円)

(単位:%)

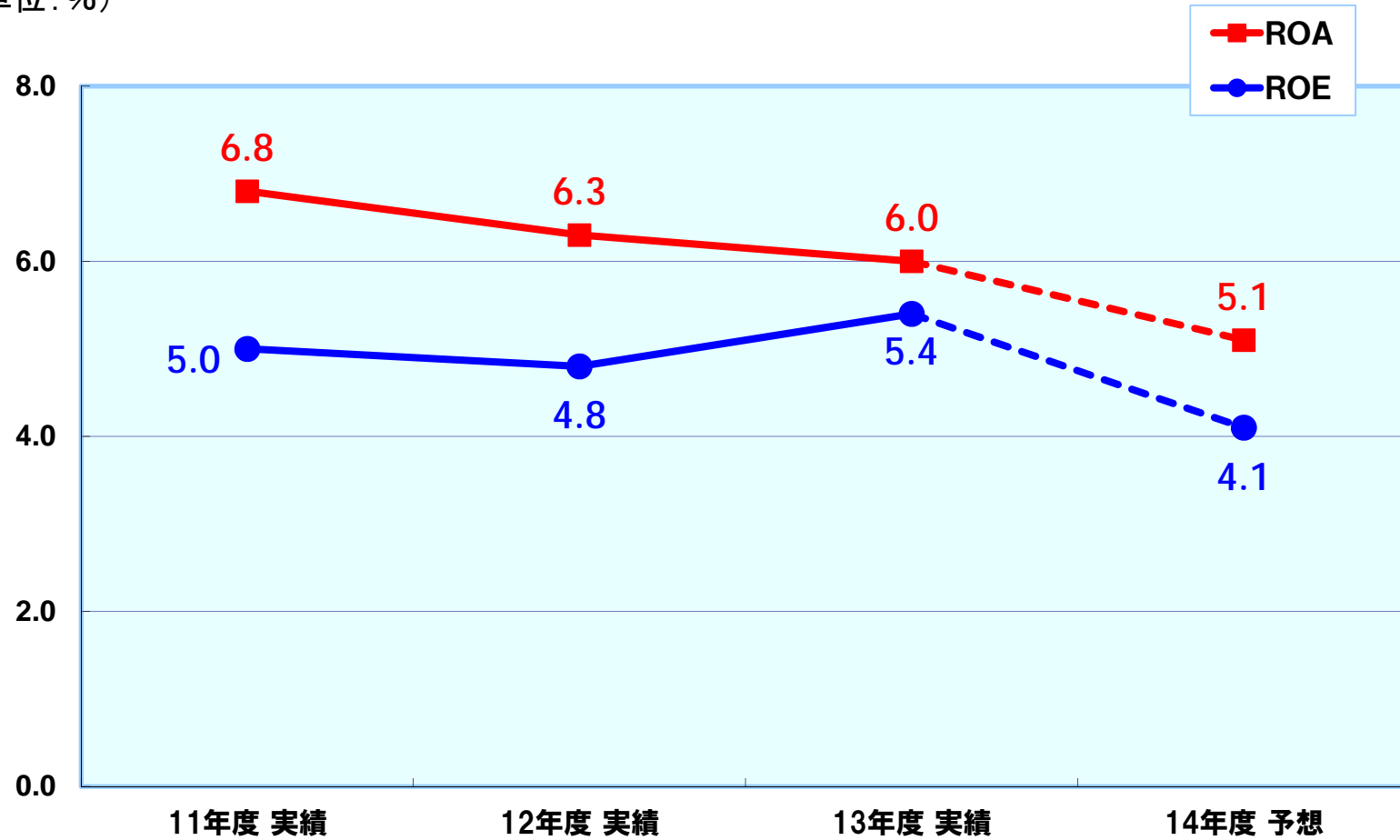


※セグメント間取引消去を含む。



ROA・ROE

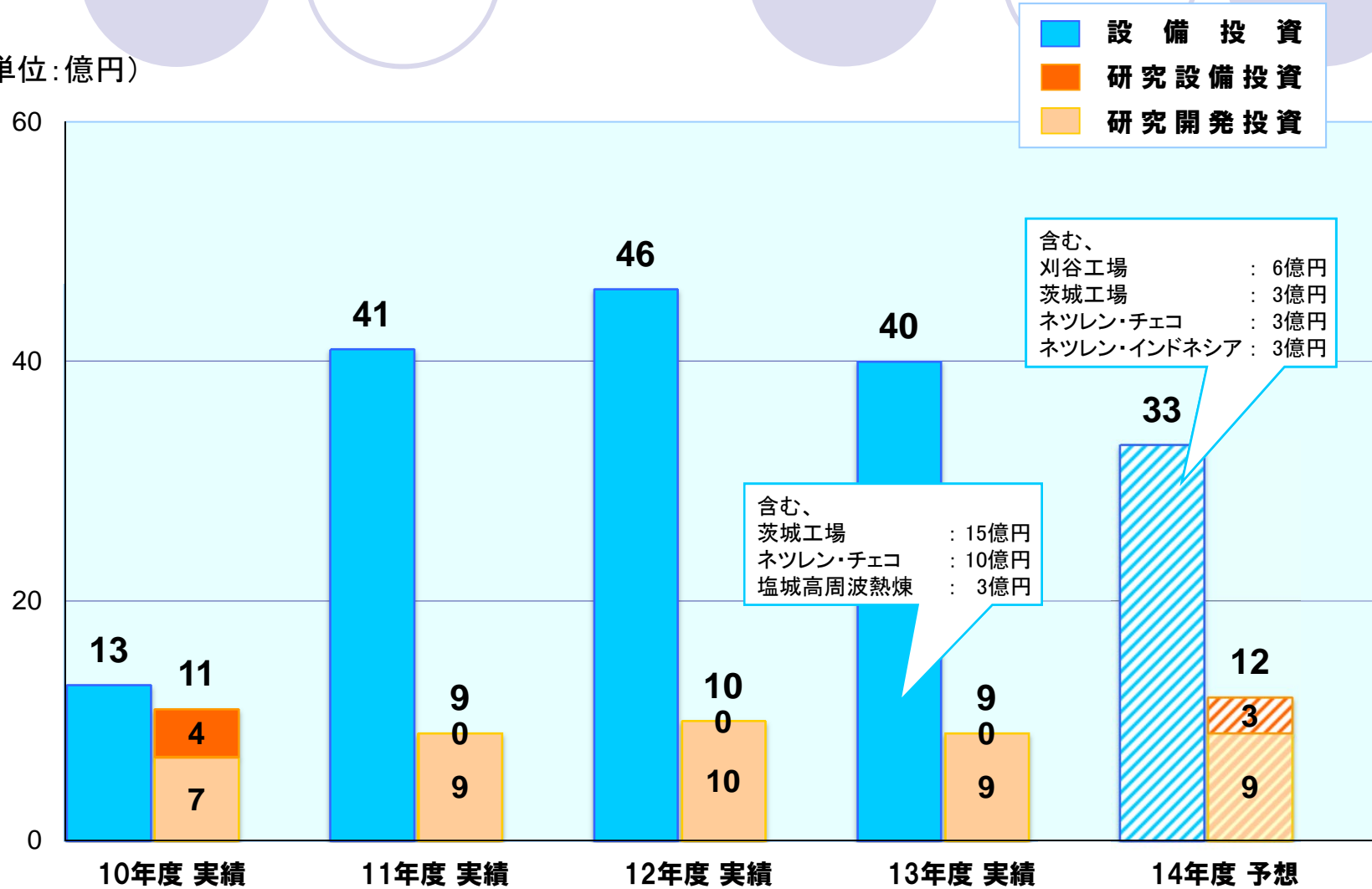
(単位: %)



8

設備投資・研究開発投資

(単位:億円)

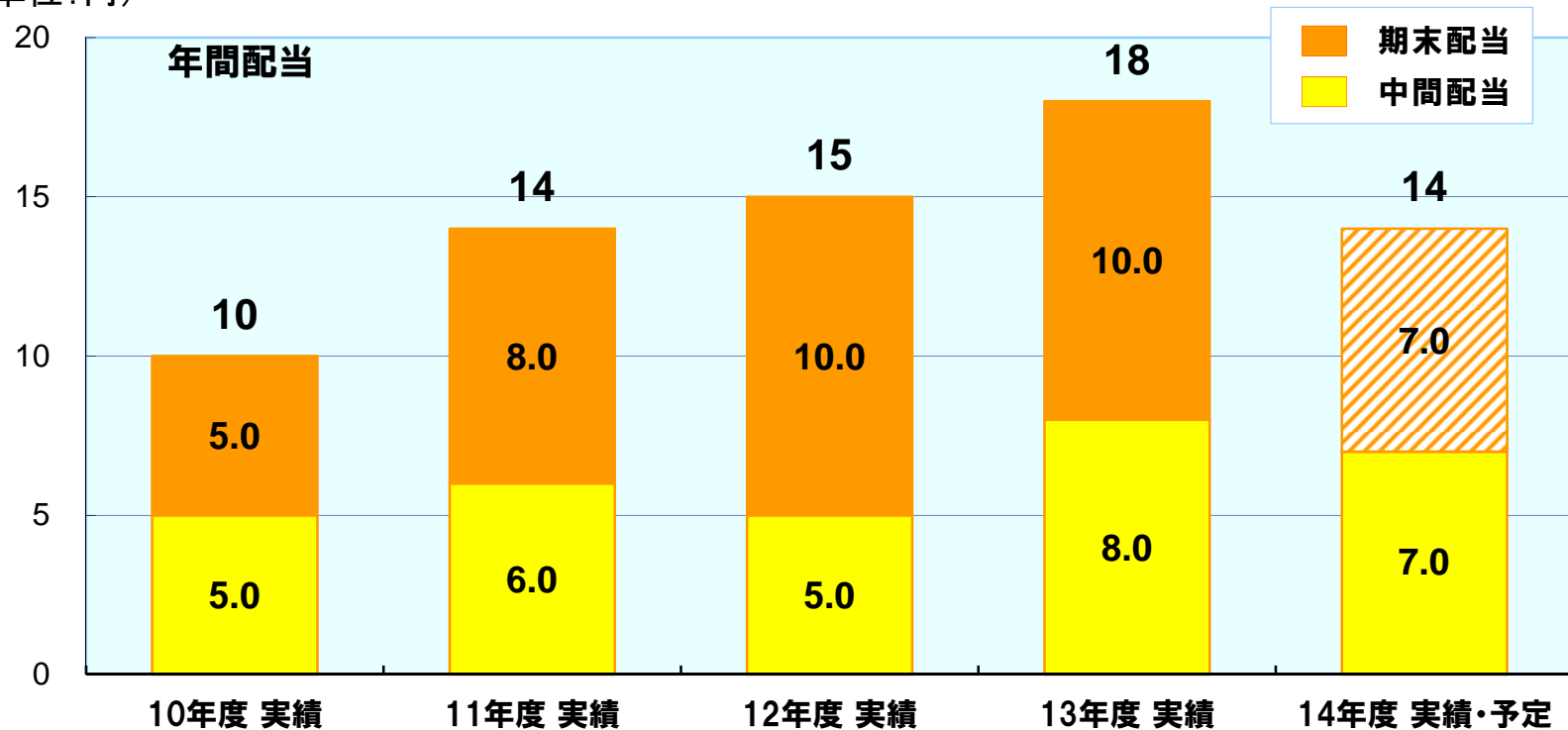


基本方針

基本的には、安定した配当を継続していくという方針に加え、業績に応じた利益配分を行うこととし、当社グループを取り巻く経営環境および財務の状況等を勘案のうえ、決定していくことを基本方針としています。

なお、原則として、「安定した配当」については、当面、年10円を下限とし、また、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向25%以上を目処としています。
(2011年10月13日公表)

(単位:円)





Ⅱ 第12次中期経営計画の進捗状況

スローガン「Global Challenge 30」

[中期経営方針]

1. 成長戦略の遂行と基盤づくり
2. グローバル事業の展開
3. 人財の確保と育成

[主旨]

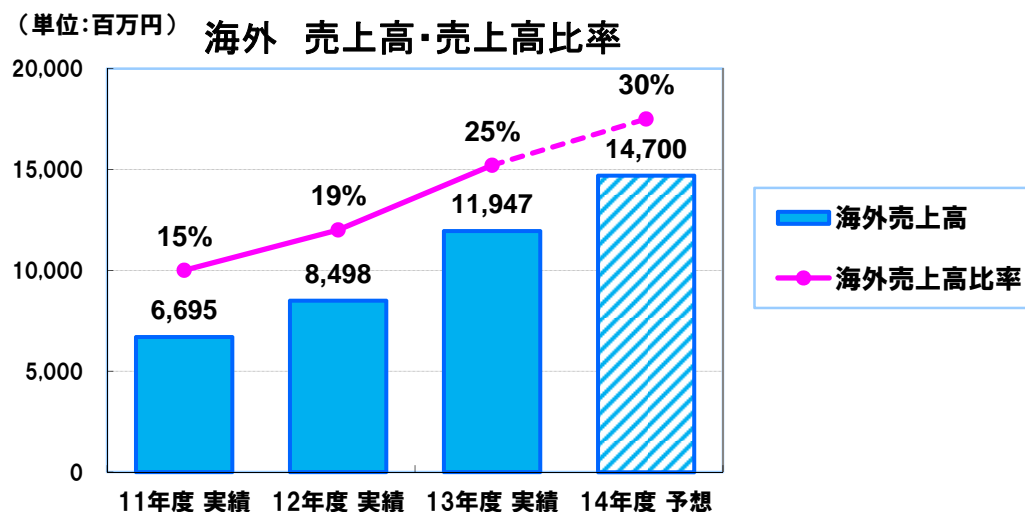
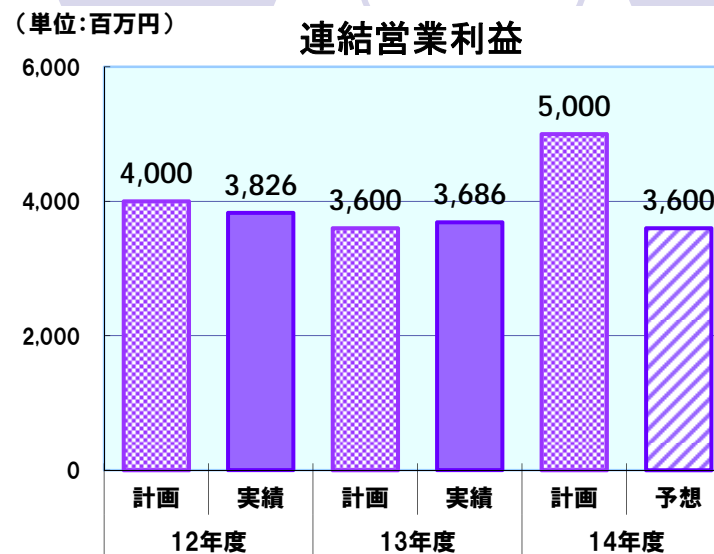
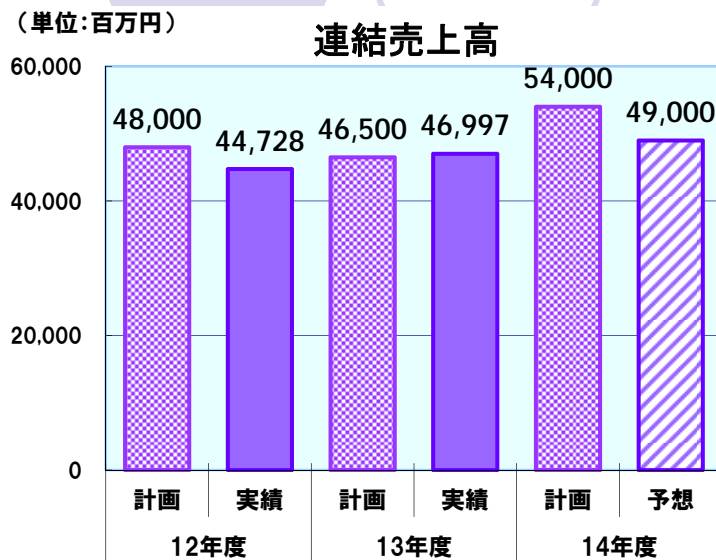
成長戦略を遂行するため積極的に海外事業展開をし、海外売上高比率倍増(30%)に向け、果敢に挑戦する。

[連結目標]

	2015年3月期 計画
売上高	540億円以上
うち、海外売上高比率	26%以上
営業利益	50億円以上
営業利益率	9.5%以上
ROA(総資産経常利益率)	7.5%以上
ROE(株主資本純利益率)	6.5%以上

※2013年5月に見直し後の計画値による。

第12次中期経営計画の実績と計画 (連結売上高・連結営業利益)





Ⅲ 新商品・新技術の開発、新規事業の推進

12 新技術の開発(1)

“二重高周波焼入れ **WIQ** による高強度・高精度化技術を開発”

高周波熱処理は前組織の影響を受けやすいが**WIQ**プロセス内で調整し、**SRIQ**(超急速短時間加熱焼入れ)により**高強度とW-ティ変形を両立**

(SRIQ : **S**uper **R**apid **I**nduction heating and **Q**uenching)

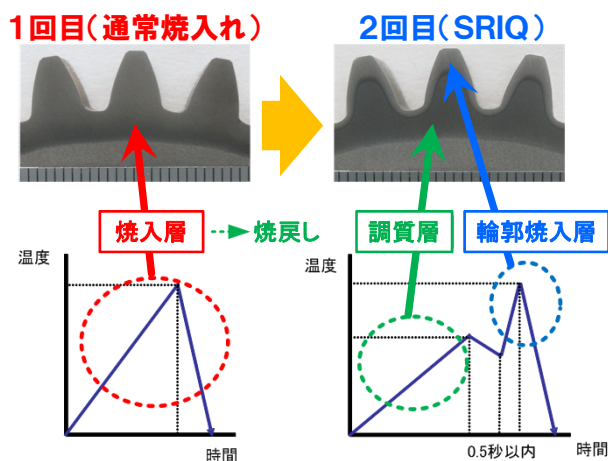
1. 特長

- ①「**高い曲げ疲労強度**」
- ②「**W-ティ(定・低)変形**」
- ③「**均一微細な焼入組織**」

SRIQによる高圧縮残留応力、高素地硬さ、微細結晶粒の効果
1個流して熱処理条件が安定な高周波焼入れ + SRIQの効果
自己調質による前組織改善 + SRIQの効果

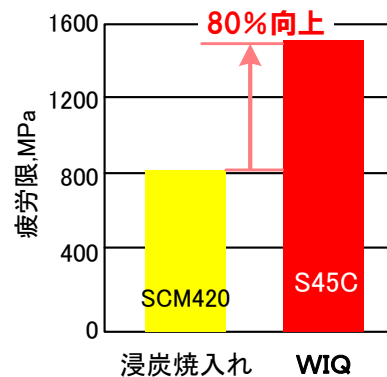
2. 手法

【WIQ熱処理プロセス】

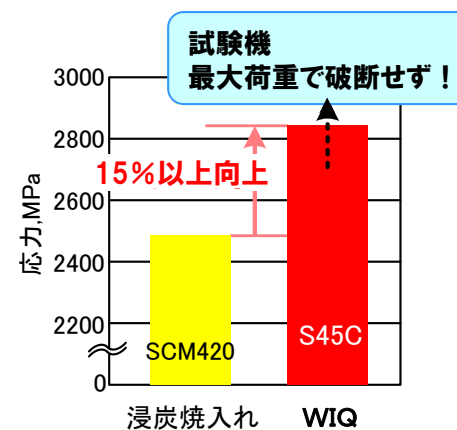


3. 期待効果

【歯元曲げ疲労強度】



【歯元静曲げ強度】



“薄鋼板用の2周波スポット溶接工法を開発”

スポット溶接後の高周波焼戻しにより中・高炭素鋼薄鋼板を溶接可能に！

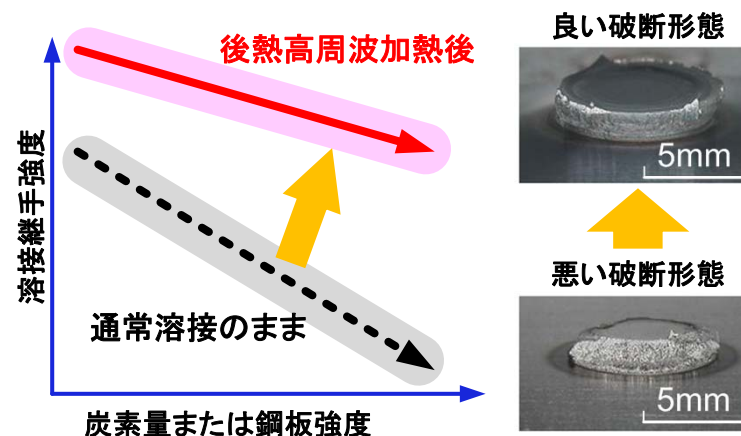
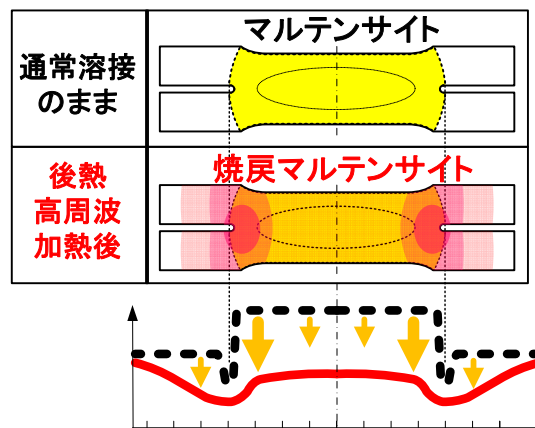
1. 課題

自動車の強い軽量化ニーズにより、超々高張力(超々ハイテン)薄鋼板の開発が急速に進んでいるが、スポット溶接による接合強度の低下が課題

2. 開発技術

スポット溶接機に高周波電源を組み合わせ、溶接部周辺を後熱高周波加熱焼戻しすることにより、溶接部の強度靱性バランスを改善し接合強度の向上が可能 ※

※ 2014年9月に日本、10月に米国の溶接学会で発表



3. 期待効果

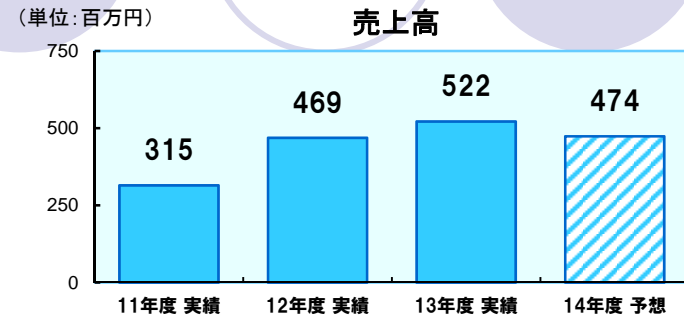
- 一般的に溶接に不向きとされる中・高炭素鋼のスポット溶接が可能
- ホットプレス、冷間プレスともに超(々)高張力薄鋼板の溶接が容易化

新規事業の推進

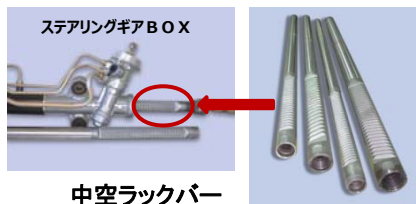
1. フロントフォークインナーチューブの加工・熱処理一貫加工の事業化の推進



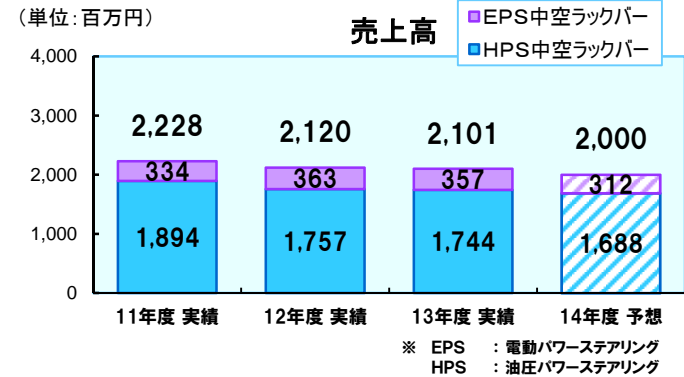
フロントフォークインナーチューブ



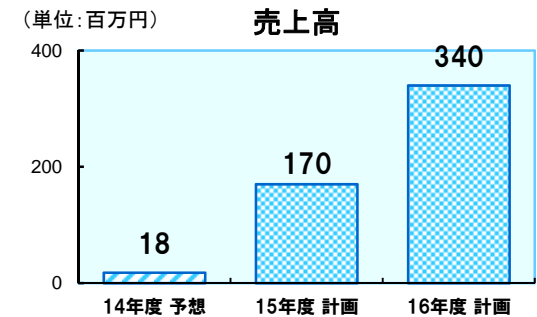
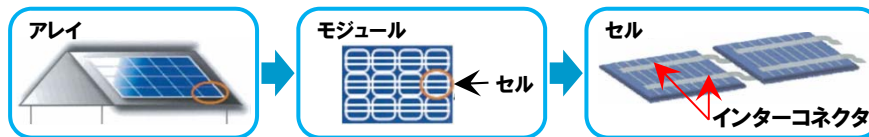
2. 電動パワーステアリング用中空ラックバーの事業化の推進



中空ラックバー

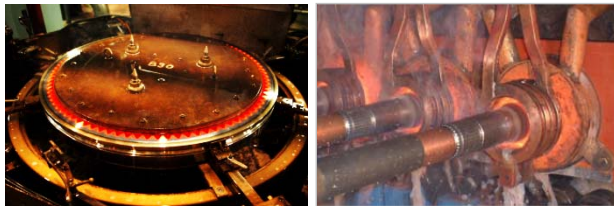


3. 太陽電池用インターコネクタの事業化の推進

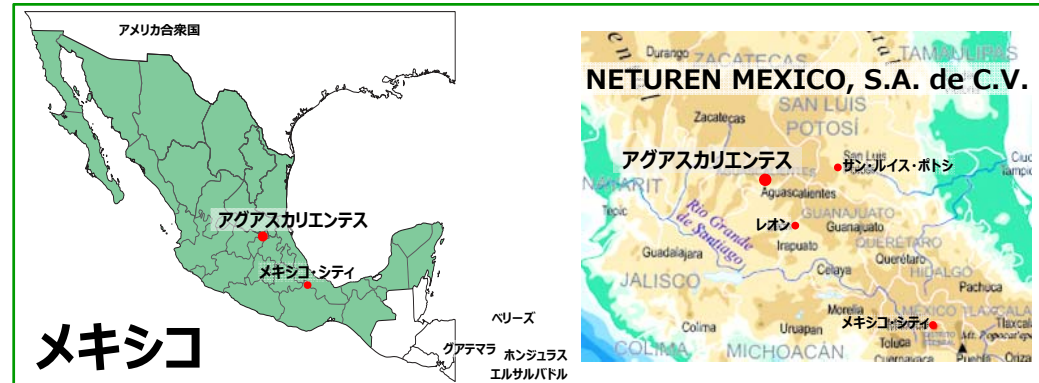


“ Netzlen の固有技術を生かし北米市場へ積極参入 ”

熱処理受託加工およびIH(誘導加熱)設備販売・サービス強化を推進するため、成長著しいメキシコに新会社を設立(2015年1月予定)



高周波熱処理



新会社の概要

NETUREN MEXICO, S. A. de C. V. (Netzlen ・メキシコ可変資本株式会社) ・仮称

- 所在地 メキシコ合衆国 アグアスカリエンテス州 PILA工業団地内
- 事業内容 熱処理受託加工およびIH(誘導加熱)装置等の販売・サービス
- 資本金 4百万米ドル(約4億円)
- 事業形態 合併(Netzlen :95%、Neturen USA, INC. (当社100%出資子会社) :5%)
- 操業開始 2016年2月予定

“Neturen Czech の早期生産体制の確立” (2014年4月操業開始)

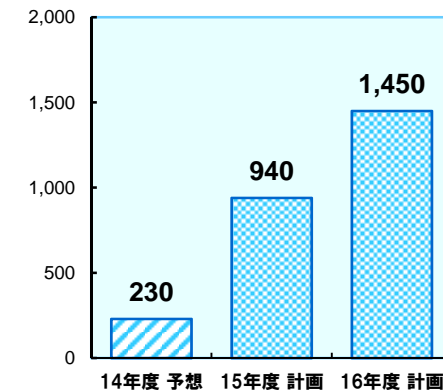
欧州および日系自動車部品メーカーからの高品質・高強度ばね鋼線(ITW)のニーズに応え生産体制を確立し、市場の拡大をはかる

新事業の概要

Neturen Czech s. r. o. (ネツレン・チェコ有限会社)

- 所在地 チェコ共和国 Usti州 Zatec工業団地
- 事業内容 自動車向け冷間成形用高強度ばね鋼線(ITW)の製造・販売
- 資本金 4億チェココルナ(約16億円)
- 事業形態 合併(ネツレン:90%、(株)メタルワン:10%)

(単位:百万円) 売上高



17

グローバル事業の展開(3)

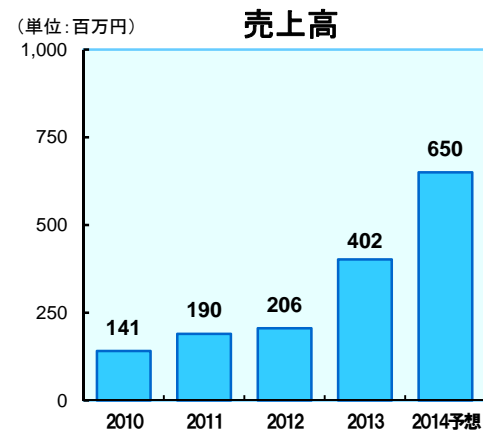
“中国における熱処理受託加工総合メーカーとして更なる
事業拡大を目指す”

最新鋭の高周波連続焼入機および浸炭連続熱処理炉の導入により
更なる生産能力の向上、品質向上を実現

ネツレン・中国
熱処理受託加工ネットワーク



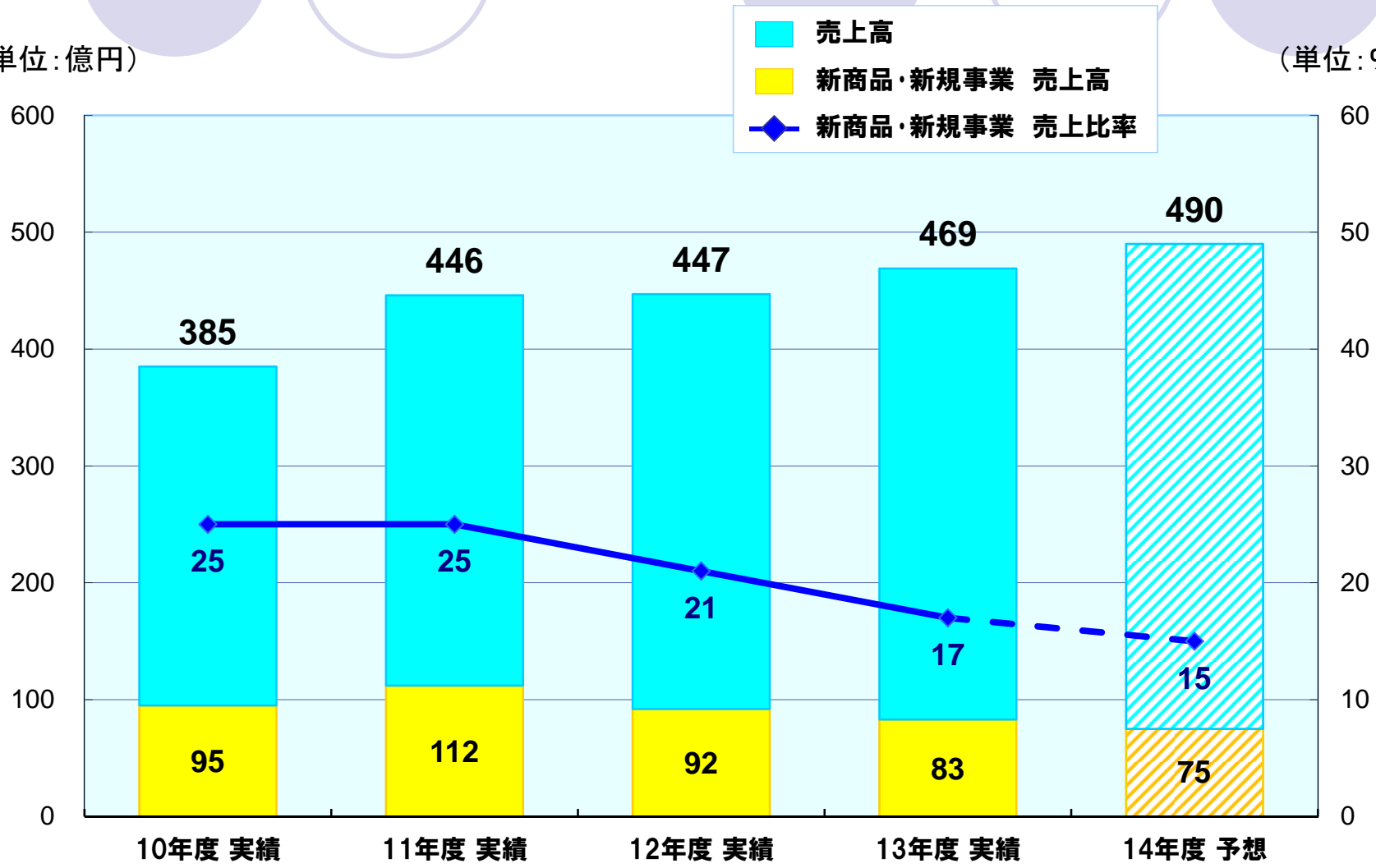
広州豊東熱煉有限公司の例



新商品・新規事業売上高

(単位:億円)

(単位:%)



※新商品・新規事業売上高は、ネットレン新商品・新規事業売上基準による。



IV 2015年(平成27年)3月期第2四半期 連結決算の概要

1. 全般

主として建設業界および建設機械業界からの受注が本格的な回復に至っていないことが、当社グループの業績に影響を与え、売上高は、22,530百万円と前年同期比4.4%減収となりました。

営業利益は、1,507百万円と前年同期比29.0%の減益、経常利益は、1,598百万円と前年同期比35.2%の減益、四半期純利益は、1,011百万円と前年同期比38.3%の減益となりました。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

当社主力製品である建設関連製品の販売量は、主として人手不足による建設工事の着工遅れの影響などにより、前年同期と比較し減少いたしました。

一方、高強度ばね鋼線(ITW)の販売量は、顧客からの受注が比較的堅調に推移しており、前年同期と比較し増加いたしました。

この結果、売上高は、11,277百万円と前年同期比3.8%の減収、営業利益は、768百万円と前年同期比29.0%の減益となりました。

(2) IH事業部関連事業

熱処理受託加工関連および自動車部品関連の売上高は、前年同期と比較し増加いたしました。

建設機械部品関連および誘導加熱装置関連の売上高は、建設機械業界からの受注の回復が遅れていること、中国での受注が低迷したことにより、減少いたしました。

この結果、売上高は、11,188百万円と前年同期比5.0%の減収、営業利益は、710百万円と前年同期比30.1%の減益となりました。

(3) その他

当社保有の賃貸物件については、小規模ではありますが、安定的に業績に寄与しております。

売上高は、64百万円と前年同期比3.7%の減収、営業利益は、28百万円と前年同期比8.5%の増益となりました。

3. 先行き不透明感が強い中、フリーキャッシュ・フローの黒字、実質的な無借金経営、高い自己資本比率など、健全かつ強固な財務体質を維持しています。

(単位:百万円)

	2013年 9月期	2014年 9月期	増 減	増減率(%)	2014年 3月期
売 上 高	23,570	22,530	△ 1,039	△ 4.4	46,997
営 業 利 益	2,124	1,507	△ 617	△ 29.0	3,686
経 常 利 益	2,468	1,598	△ 869	△ 35.2	4,449
四半期(当期)純利益	1,638	1,011	△ 627	△ 38.3	2,939

2015年3月期第2四半期 連結決算(単独期間)の要点(4)

(単位:百万円)

	2014年 3月期	2015年 3月期		前年同期比		直前四半期比	
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
製品事業部関連事業	5,923	5,658	5,618	△ 304	△ 5.1	△ 39	△ 0.7
IH事業部関連事業	6,038	5,177	6,010	△ 27	△ 0.5	833	16.1
その他	33	31	33	△ 0	△ 1.6	2	6.5
売上高	11,996	10,867	11,662	△ 333	△ 2.8	795	7.3
製品事業部関連事業	509	388	380	△ 129	△ 25.4	△ 8	△ 2.1
IH事業部関連事業	489	295	414	△ 74	△ 15.2	119	40.3
その他	16	14	14	△ 2	△ 13.7	0	1.0
営業利益	1,015	698	809	△ 205	△ 20.3	111	15.9
経常利益	1,190	782	816	△ 374	△ 31.4	34	4.4
四半期純利益	803	477	533	△ 269	△ 33.6	56	11.8

(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2013年 9月期	2014年 9月期	増 減	増減率(%)	2014年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	11,724	11,277	△ 447	△ 3.8	23,530
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	11,778	11,188	△ 590	△ 5.0	23,331
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	67	64	△ 2	△ 3.7	135
合 計		23,570	22,530	△ 1,039	△ 4.4	46,997

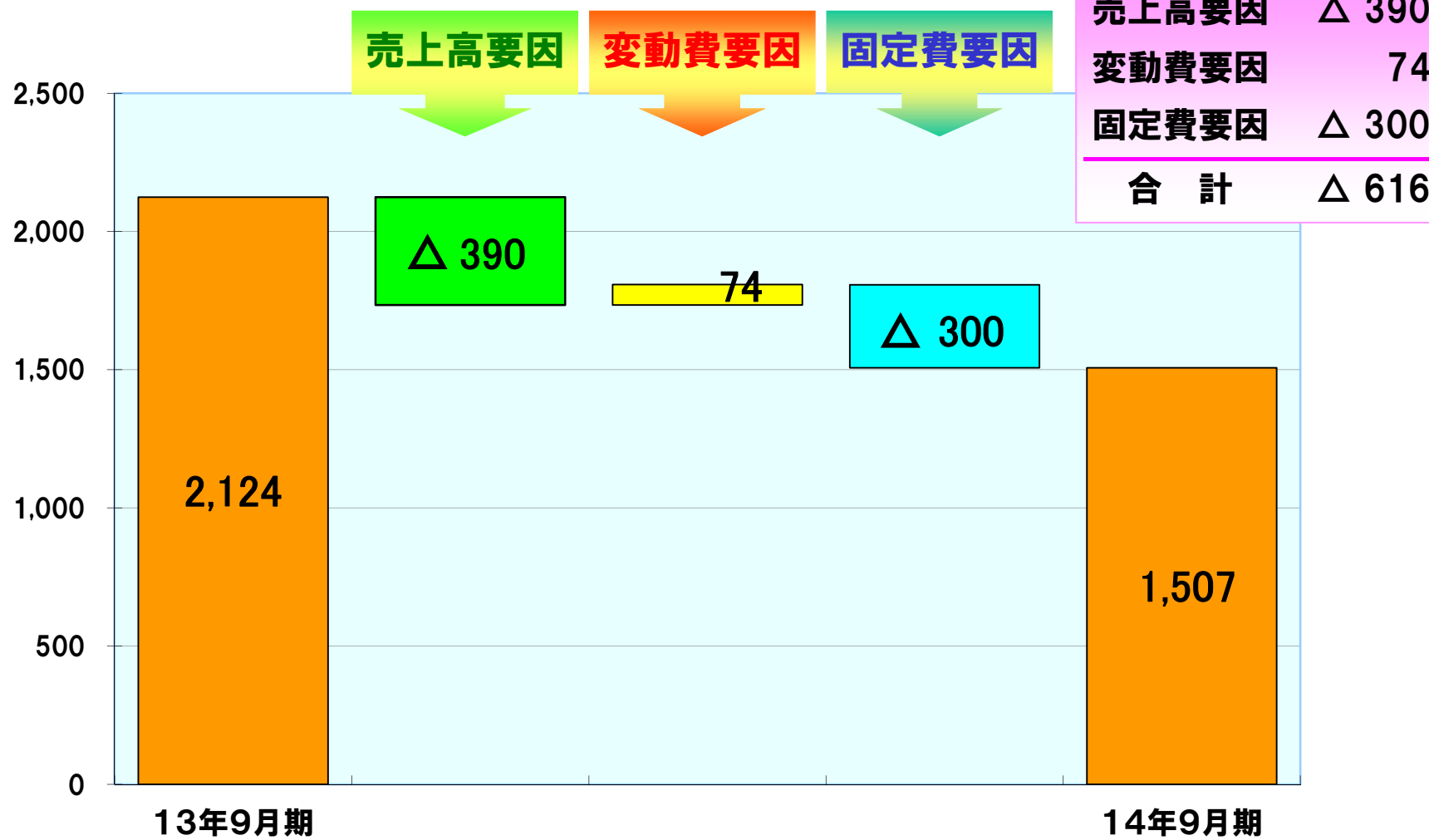
(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2013年 9月期	2014年 9月期	増 減	増減率(%)	2014年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	1,081	768	△ 313	△ 29.0	1,957
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	1,016	710	△ 305	△ 30.1	1,673
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	26	28	2	8.5	55
合 計		2,124	1,507	△ 617	△ 29.0	3,686

※()は、セグメント間取引消去。

連結営業利益増減内容

(単位:百万円)

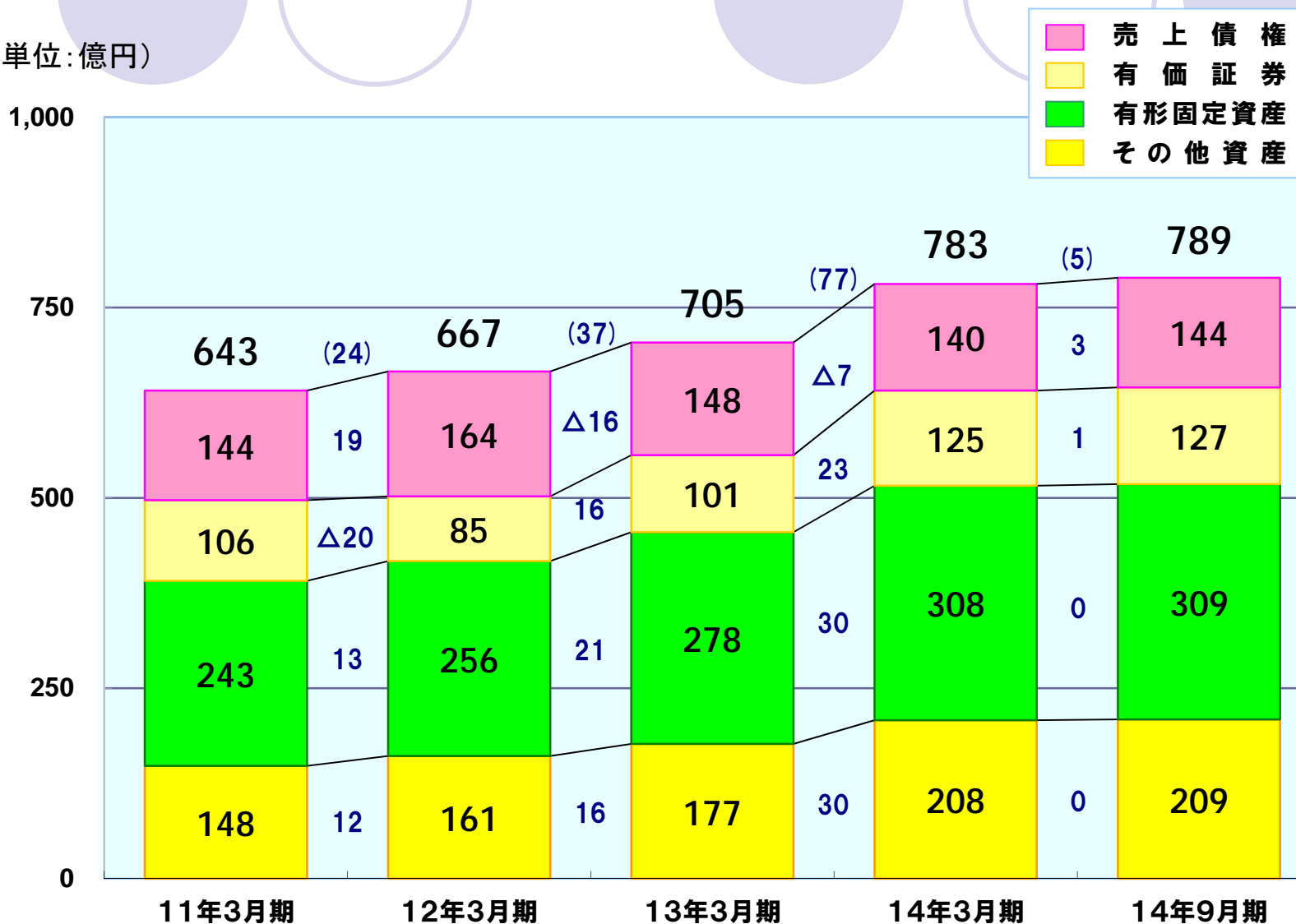


(単位:百万円)

科目	期別	2013年 9月期	2014年 9月期	増減	増減率 (%)	2014年 3月期
売上高		23,570	22,530	△ 1,039	△ 4.4	46,997
売上原価		18,114	17,825	△ 288	△ 1.6	36,814
売上総利益		5,456	4,704	△ 751	△ 13.8	10,183
販売費及び一般管理費		3,331	3,197	△ 134	△ 4.0	6,496
営業利益		2,124	1,507	△ 617	△ 29.0	3,686
営業外収益		395	288	△ 107	△ 27.1	862
営業外費用		51	197	145	280.7	99
経常利益		2,468	1,598	△ 869	△ 35.2	4,449
特別利益		109	24	△ 85	△ 78.0	190
特別損失		4	28	24	507.1	23
税金等調整前四半期(当期)純利益		2,573	1,593	△ 979	△ 38.1	4,615
法人税、住民税及び事業税		681	463	△ 218	△ 32.0	1,206
法人税等調整額		-	-	-	-	18
少数株主損益		252	119	△ 133	△ 52.8	450
四半期(当期)純利益		1,638	1,011	△ 627	△ 38.3	2,939

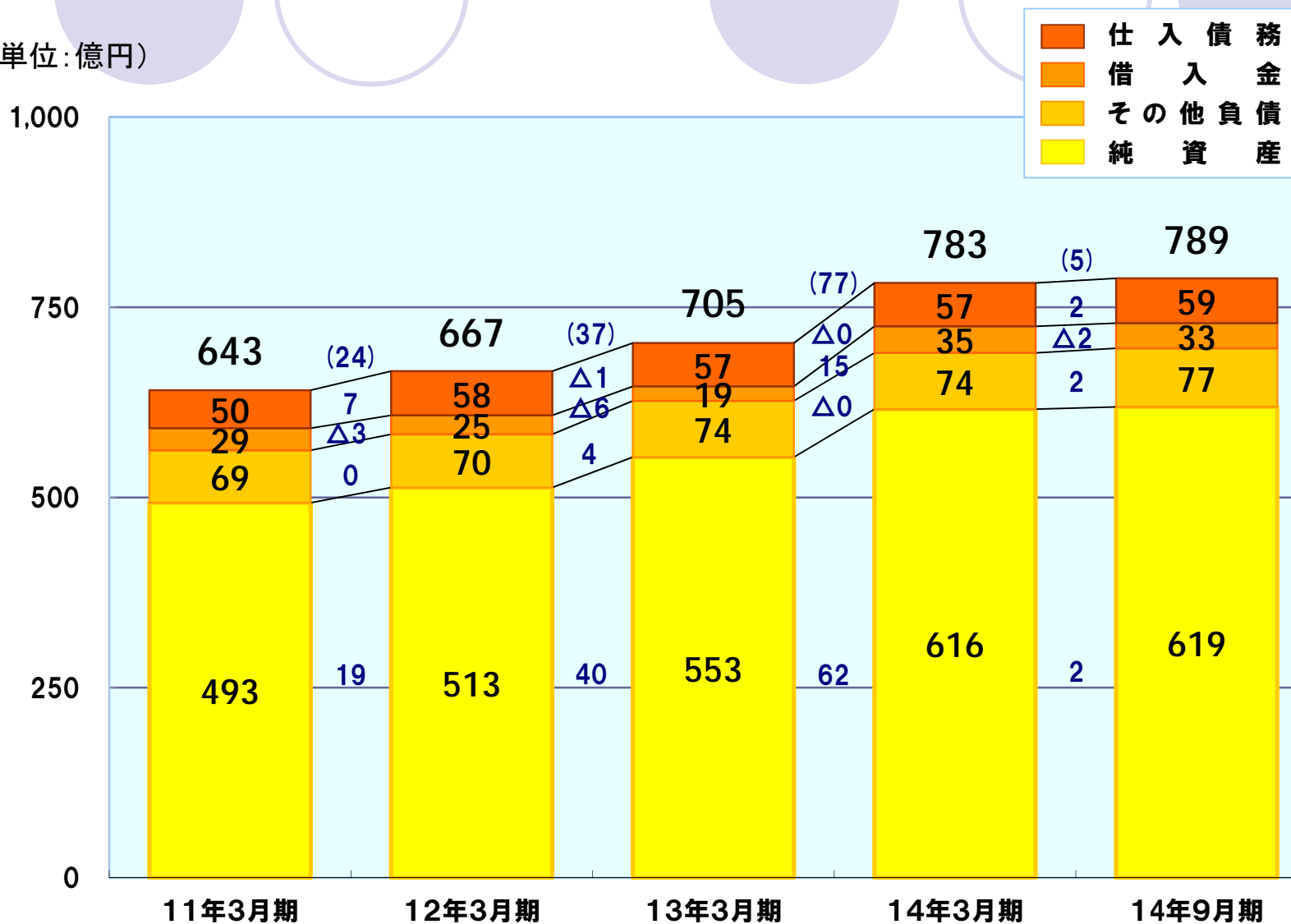
2014年9月期 資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2014年9月期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2015年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー(連結)

(単位:百万円)

科 目	2013年 9月期	2014年 9月期	対前年同期比 増 減	2014年 3月期
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,573	1,593	△ 979	4,615
減価償却費	1,250	1,325	75	2,651
売上債権の増減	694	△ 455	△ 1,150	1,151
仕入債務の増減	243	312	68	△ 198
その他	△ 1,696	△ 351	1,344	△ 2,422
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,066	2,425	△ 640	5,797
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,878	△ 1,851	27	△ 5,516
フリーキャッシュ・フロー	1,187	573	△ 613	281
借入金	1,661	△ 180	△ 1,841	1,311
自己株式の取得	△ 0	△ 0	△ 0	△ 0
配当金の支払額	△ 426	△ 426	0	△ 767
その他	73	△ 42	115	37
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,307	△ 649	△ 1,956	581
キャッシュ・フロー四半期(期末)残高	14,036	12,612	△ 1,424	12,684

1. 全 般

売上高は、49,000百万円と前年同期比4.3%の増収、営業利益は、3,600百万円と前年同期比2.3%の減益、経常利益は、4,000百万円と前年同期比10.1%の減益、当期純利益は、2,300百万円と前年同期比21.8%の減益を見込んでおります。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

国内における高強度せん断補強筋の価格・シェア競争が、引き続き、激化すると見込まれますが、高強度ばね鋼線(ITW)の受注量が堅調に推移すると予想され、売上高は、23,700百万円と前年同期比0.7%の増収、営業利益は、 Netzlen・チェコの減価償却費の増加などにより、1,700百万円と前年同期比13.1%の減益を見込んでおります。

(2) IH事業部関連事業

建設機械業界からの受注の回復が遅れておりますが、自動車業界からの受注量が堅調に推移すると予想され、売上高は、25,170百万円と前年同期比7.9%の増収、営業利益は、1,840百万円と前年同期比10.0%の増益を見込んでおります。

(3) その他

売上高は、130百万円と前年同期比3.7%の減収、営業利益は、60百万円と前年同期比9.1%の増益を見込んでおります。

1. **大型プロジェクト〔復興需要・東京オリンピック・リニア新幹線・品川－田町間の新駅建設等〕の情報収集および工法開発を含む需要開拓の推進**
2. **海外新規事業〔チェコ・インドネシア・中国(天津)・メキシコ〕の確実な推進・立ち上げおよび中国子会社〔塩城・軸承〕の積極的な収益力向上**
3. **茨城工場における収益貢献体制の早期構築**
4. **全体的なコストダウン(特に電力原単位を重視)の徹底**
5. **全部門の協働による開発案件の迅速な実用化**

(単位:百万円)

事業区分	2014年 3月期	2015年 3月期 (予想)	増 減	増減率 (%)	2014年 9月期
製品事業部 関連事業	23,530	23,700	170	0.7	11,277
IH事業部 関連事業	23,331	25,170	1,839	7.9	11,188
そ の 他	135	130	△ 5	△ 3.7	64
合 計	46,997	49,000	2,003	4.3	22,530

(単位:百万円)

事業区分	2014年 3月期	2015年 3月期 (予想)	増減	増減率 (%)	2014年 9月期
製品事業部 関連事業	1,957	1,700	△ 257	△ 13.1	768
IH事業部 関連事業	1,673	1,840	167	10.0	710
その他	55	60	5	9.1	28
合計	3,686	3,600	△ 86	△ 2.3	1,507

35

連結設備投資額

(単位:百万円)

	2013年 3月期	2013年 9月期	2014年 3月期	2014年 9月期	2015年 3月期 (予 想)
設備投資額	4,627	1,532	4,091	2,143	3,300
減価償却費	2,669	1,250	2,651	1,325	2,800

1. 企業価値の向上

- (1) 第12次中期経営計画「*Global Challenge 30*」の完遂
- (2) 第13次中期経営計画の策定

2. 収益性を伴う成長戦略の遂行

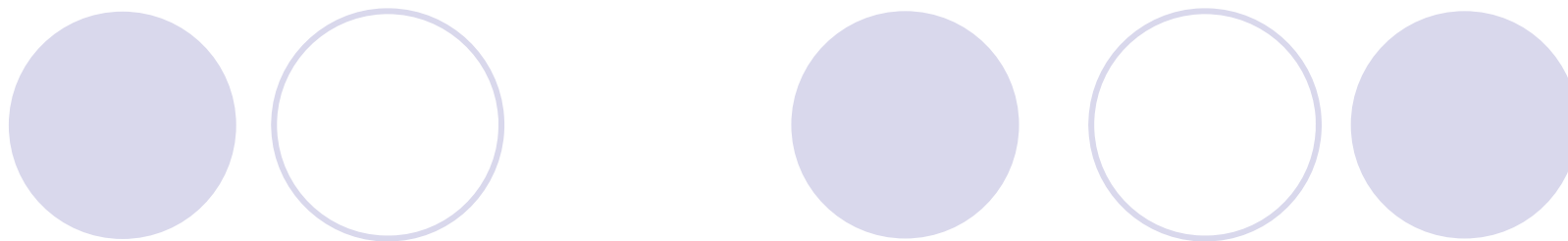
- (1) 受注・シェアの確保とグローバル戦略の推進
- (2) 聖域なき収益力向上策(品質・コスト・生産性)の実施

3. 新商品開発・新規事業化の促進

- (1) 技術開発力のさらなる強化
- (2) 市場投入までのスピードアップ

4. 資産・資本効率の向上(ROA・ROEの改善)

- (1) 資産圧縮策の実行
- (2) 適切な資本政策の遂行



(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。